

平戸市における地域公共交通の現状と課題

1 平戸市交通の現状

(1) 海上交通

市内には、平戸～度島間を結ぶフェリー度島、平戸～大島間を結ぶフェリー大島、宮の浦高島間を結ぶ瀬渡し船、前津吉～佐世保港を結ぶ津吉商船がある。まず、フェリー度島、フェリー大島については、両船とも島民の移動手段として欠かせないものとなっており、現在、両船とも離島住民低廉化による料金割引、自動車航送運賃の増加、国県補助金による安定した支援等もあり、経営は安定している状況。しかし、定期船となっているため、住民の移動時間の制限が課せられ、一部、フェリー以外の交通手段として瀬渡し船を使用し、片道 10,000 円以上の高額な料金を支払い移動している者もいる状況。

また、宮の浦～高島間の瀬渡し船については、平成 26 年度までデマンド方式をとり、自由な時間帯の中で利用していた状況であったが、過度な利用が頻繁に行われた経過があり、平成 27 年度から定時運行を開始。これにより利用制限がなされ利用者数及び利用料金が安定し、市の持ち出しも安定している状況。

前津吉～佐世保港を結ぶ津吉商船については、主に住民が佐世保市内の病院へ通院する際の移動手段として活用されていると共に、昨今では、観光客が本市南部地区への来訪の際に使用する交通手段として活用されているケースもある模様。本航路は、国の補助航路に採択され支援されていることから、安定した航路運行がなされている。

(2) 陸上交通

本市の陸上交通については、田平地区を走る松浦鉄道、市内の幹線沿いを走る民営の西肥バス、生月バス、中南部地区を走る市直営のふれあいバス、大島地区を走る民営のふれあいバス、平戸地区及び田平地区内を走るシルバータクシー及びマンボウタクシーが存在するが、人口減少等もあり、年々、利用者数は減少傾向にある。また、昨今、各地区の高齢化率の向上もあり、特に路線バスの乗り降りができない高齢者や自宅からバス停まで行けない高齢者が増えてきている現状もあり、そのような地域の課題解決のため、度島地区及び志々伎地区においては、まちづくり運営協議会が運営するコミュニティバスが運行している状況となっている。

- ・平戸地区：西肥バス、生月バス、シルバータクシー、マンボウタクシー
- ・度島地区：度島コミュニティバス
- ・中部地区：西肥バス、生月バス、ふれあいバス、中部タクシー
- ・南部地区：西肥バス、ふれあいバス、志々伎コミュニティバス
- ・生月地区：生月バス、生月タクシー
- ・田平地区：松浦鉄道、西肥バス、シルバータクシー、マンボウタクシー
- ・大島地区：ふれあいバス

2 本市における公共交通空白地帯等（仮）

地域別	公共交通空白地帯と思われる自治区等	
	空白地帯（駅から半径1km以上又はバス停から500m以上離れた地域）	準空白地帯（バス路線はあるが、1日3便以下又は週3日以下の運行）
平戸北部地区	後平、田の浦・神崎・油水・田助在の一部、大瀬、山野、川内在の一部、潮の浦の一部	下中野、古江、山中の一部
平戸中部地区		田崎、神鳥、木ヶ津、赤松、
平戸南部地区	大佐志、鮎川、神上の一部、東中山の一部、高島	敷佐、船木、早福、大志々伎 ※志々伎地区では公共交通空白地帯有償運送を実施
生月地区	堺目、元触の一部、山田の一部	
田平地区	野田、永久保の一部、大崎、釜田、大久保、米の内、南荻田の一部、外目、以善、田代、古梶、深月、下里・上里の一部、岳崎、福崎、上亀、	坊田の一部、生向、下寺
大島地区		板の浦
度島地区	※公共交通空白地帯有償運送を実施	
人口	約 4, 5 5 0人 (15%)	約 1, 8 0 0人 (6%)

3 各地区の現状

(1) 平戸北部地区

平戸北部地域については、主要幹線に西肥バス及び生月バスが運行されているものの、半島などの一部に空白地帯が存在する。特に、大瀬地区は最寄りのバス停から4km以上、山野地区においては2km以上離れている。また、古江地区及び下中野地区についても、1日1便（往復）の運行となっている。

(2) 平戸中部地区

ふれあいバスや西肥バスの運行により、国道沿いについては路線の便数も充実している。また、西海岸地域（獅子、根獅子、飯良）については、最低で1日4便以上の運行が確保されている。しかし、赤松地区、及び田崎・神鳥地区については、病院への通院バスが1便（往復）運行されている状況となっている。また、木ヶ津地域は家屋が点在していることもあり、準空白地帯となっている。

(3) 平戸南部地区

国道沿いについては、宮の浦地区まで、西肥バスが運行され便数の確保はできている。

また、堤地区から前津地区については、フェリーの時刻に合わせて、ふれあいバスが運行されている。しかし、内陸部の敷佐地区や幹線から離れた海岸の船木地区、早福地区、大志々伎地区においては、1便（往復）の通院バスが週2日又は、3日運行されている状況となっている。

※志々伎地区においては、まちづくり運営協議会において、公共交通空白地有償バスが運行され、高齢者の通院及び買い物支援が実施されている。

(4) 生月地区

幹線に沿って、生月バスが運行され幹線沿いの便数は確保されている状況にある。しかし、山間部の堺目や山田地区の一部が空白地帯となっている。

(5) 田平地区

田平地区は、西肥バス及び松浦鉄道が運行されており、交通の便は充実されているように思えるが、幹線と鉄道が並行しているため、広範囲をカバーするに至っていない。このようなことから、幹線から離れた海岸沿いの地域や内陸部の地域のすべての地区において、交通空白及び準空白地帯となっており、その地帯の人口は約3,000人で田平町人口の45%を占めている。下寺免には、北農高校があるが、生徒の登下校のみのバスが運行されており、地域住民の交通手段の確保とはなっていない。

(6) 大島地区

大島フェリーの時刻に合わせて、大島村産業バスが島内の地区をくまなく運行されている。しかし、板の浦地区については、月・水・金の一日3便（フェリー時刻及び診療所開設に日に合わせている。）のみの運行を行っており、準空白地帯となっている。

(7) 度島地区

平成27年度から、過疎地有償運送事業を実施し、フェリーの到着時間や診療所通院に合わせた運行を実施している。※運行時間等については、まちづくり運営協議会の中で、島内の利用者の意見を取り入れ時刻表を作成し運行している。

4 平戸市交通の課題

- (1) 海上交通については、どの航路も定期（定時）航路となっており、航路の運行時間にあわせた利用となり、利用者の行動時間の制限がかかるため、原則、本島に住む住民よりも行動範囲が限られたものになる。
- (2) 陸上交通については、少子高齢化による人口減少等による利用者の減少が市負担額の増加となっている。昨今では、路線バスに乗り降りできない高齢者、自宅からバス停まで移動できない高齢者が増加傾向にあり、本市のみならず全国的な課題になっていると共に、全国的に高齢者ドライバーの事故により、今後、免許証の自主返納者に対応していく必要が出てきている。

(3) 平戸市においては、交通空白地域の設定がなされていない状況（仮にバス路線から半径 500 メートル以上離れた地域を交通空白とした場合、別添地図のとおり。）。今後、交通網形成計画の策定等により、交通空白地域の設定を行うと共に、本市市民の生活ニーズにあった交通体系の整備と市内交通機関の効率的な運営及び利用者の利便性向上を図る必要がある。

(4) 他の自治体等で実施している高齢者等の移動助成制度については、公共交通機関やタクシー等の社会資源が充実している場合は自治体からの助成や支援のみでよいが、本市においては、交通空白地帯及び準空白地帯（正式な設定ではない。）が多いため、地域における住民同士の支え合いによる高齢者支援が重要となっている。よって、路線バス（ふれあいバスを含む）やタクシー、松浦鉄道の助成と組み合わせて、地域におけるボランティアによる無償運送に対する助成、公共交通空白地有償運送、運送業者への委託事業によるコマンドバスの運行等に対する支援を組み合わせる必要がある。

5 参考（本市における高齢者数及び介護認定者数等）

(1) 高齢者数（平成 29 年 4 月 1 日現在）

ア 65 歳以上：12,204 人

イ 70 歳以上：9,100 人

ウ 75 歳以上：6,979 人

(2) 介護認定者数（平成 29 年 4 月 1 日現在）

ア 2,672 人

※要支援 1：307 人、要支援 2：394 人、要介護 1：575 人、要介護 2：440 人、
要介護 3：324 人、要介護 4：416 人、要介護 5：216 人

※75 歳以上の介護認定者数 2,412 人

(3) 高齢運転者数（平成 28 年度、65 歳以上）

ア 5,951 人（男 3,539 人、女 2,412 人）